

宿主誘導 マニピュレーション

Manipulation

久保恵理子・中澤ふくみ

KUBO Eriko, NAKAZAWA Fukumi

2026年1月28日(水) – 2月14日(土)

pm 12 – 7 休廊：日・月・火曜

久保恵理子、中澤ふくみによる2人展「**宿主誘導 マニピュレーション**」を開催します。

「宿主誘導(マニピュレーション)」とは、寄生虫やウイルスが宿主の行動をわずかに変化させ、自らにとって有利な方向へ導く現象を指します。生き延びるために自然界で獲得されてきたこの仕組みは、私たちの日常における「無意識の選択」や「気づかぬうちの判断」とも重なります。本展では、二人の作家がそれぞれの表現を通して、私たちが自分自身の内側で行っている“見えない操作”に焦点を当てます。無意識に自らを導いている状態を「もうひとりの他者」として可視化し、視点や認識がどのように形成され、操作されているのかを探ります。タイトルの着想源となったのは、ハリガネムシがカマキリに寄生し、水辺へと誘導して溺死させるという生態です。この自然現象を手がかりに、人間の内面で起こる微細な誘導や操作を、絵画、ドローイング、映像といった複数のメディアによって展開される空間として立ち上げます。久保恵理子は、広く親しまれてきた絵画というメディアを用い、静かに、しかし確実に働きかけるイメージの力を提示します。一方、中澤ふくみは映像表現を通して、〈見る〉という行為そのものをより能動的な体験へと変換します。

鑑賞者自身の視点がどこへ導かれていくのか、そのプロセスを体感していただければ幸いです。

+1art



《密室のはじまり》木製パネル、油彩 330×220mm 2023

| 会期中催し | アーティストトーク & 音楽会

日 時 : 1/31 (土) pm 5~7

会 場 : +1art

トーク : 久保恵理子・中澤ふくみ

音楽会 : 江崎将史

参加費 : ¥500

定員 20名 予約優先 (+1art ▶ gal@plus1art.jp)

| 展示作品 | インスタレーション

• 久保恵理子 絵画

• 中澤ふくみ ドローイング、アニメーション

| 作家コメント | そこにあるものは目に見えるままなのだろうか。

目の前の現実は白々しく私達を操る。現実と精神が巻き付き合って、体の内側から何かが囁きかける。

寄生された虫が水辺に向かうように、私達はわざとらしく輝く光に抗えなくなる。

久保は、均衡の崩れる瞬間の精神世界を作品のテーマに据え、星座や動物などのモチーフを通して、内と外の境界が曖昧になる感覚をナラティブ的に描き出す。

また、動き続ける人間と道具の関係性を軸に、ドローイングやアニメーションなどの平面作品を制作している中澤は、今回は椅子の形態や用途が人間の身体をどのように制約し、また拡張するのかを探る。

久保恵理子



KUBO Eriko

広島県生まれ。2019年京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)油画コース修了。
2021年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。
出身地である広島の平和学習によるアニメーションから作品の根源である「均衡の崩れる瞬間」をテーマに平面作品を制作している。
近年参加の展覧会に、「一角獣座」(焚、京都、2025)、「ART OSAKA 2023」(大阪、2023)、「古い夢、壁には輝く蝶」(スタジオニュー hope、2023)などがある。



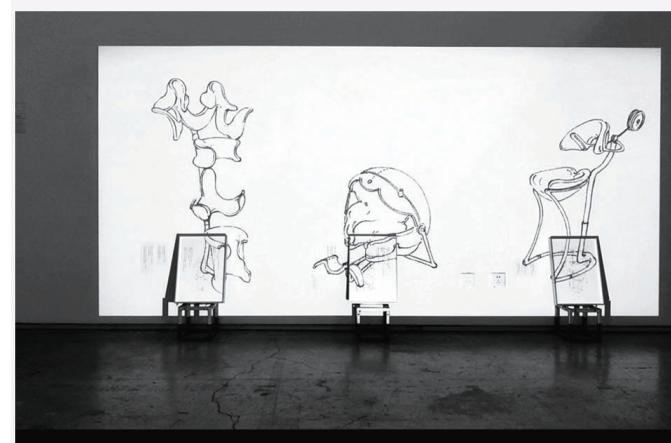
左 :《play God》キャンバスに油彩 1303×970mm 2023 右 :《エスキース》水彩、インク 160×140mm 2021

中澤ふくみ



NAKAZAWA Fukumi

2019年京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)油画コース修了。
20年エストニア芸術アカデミー修士課程アニメーションコース入学。
身体とあらゆる道具との関係性に着目し、線描でそれらの境界線を探るような
アニメーションを制作する。近年の展覧会、上映会に「日本深掘りトモグラフィー」(中国美術学院、杭州、中国)、「やんばるアートフェスティバル2025」(大宜味村
立旧塩屋小学校、沖縄、2025)、「補の分身」(biscuit gallery、東京、2024)などがある



《座譜インスタレーション》映像 サイズ可変 2025